



前回までは、E/C物流へ易実務のうち、インコタームの新規参入・拡大に利用できるサービスを有効に活用するためのポイントを紹介しました。今回はテーマを変え、貿易実務の現場改善について解説していく。

インコタームズの見直しを

近年、サプライチェーン

のグローバル化が進展し、「International Commercial Terms」のことで、貿易取引を取り巻く環境は複雑になっている。環境変化に、迅速かつ適切に対応するには、属人化しやすい貿易実務の標準・合理化、取易情報や輸送状況の一元的データ管理、書類の管理とペーパーレス化などが課題となっている。今回は貿易紛争・訴訟を防ぐため、輸出

クニエ

ロジスティクスグループ

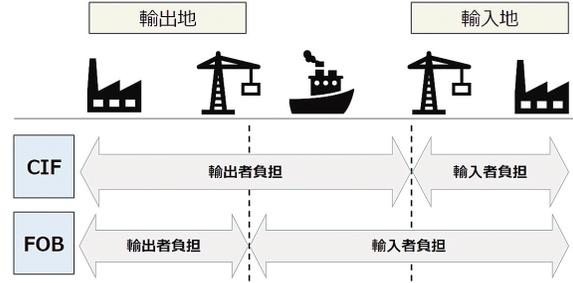
大室 翔史

マネージャー



貿易実務改善のポイント

【CIFとFOBの費用負担の違い】



入取引での当事者間の輸送の費用負担、事故の責任負担の範囲を定めている。長く続く取引では、当初定めたインコタームズの背景や目的が忘れられ、形骸化していることがある。見直すことで、業務負担やコストを軽減できる可能性がある。例えば、日本への海上輸送で利用頻度が高いインコタームズの運賃保険料込み条件(CIF)では、輸出側が海上運賃を負担する。つまり、輸出側が船社

またはフォワーダーと運送契約を締結するため、運賃や船便スケジュールの調整の主導権を握ることができる。納期は船便スケジュールに影響されるため、輸入側で日本到着までの繊細な納期コントロールが必要な場合、輸出側の事前調整が必須となる。だが予定調整がうまくいかず、後

の業務が煩雑になることがある。この場合は、本船渡し条件(FOB)などもあるだろう。フォワーダーを選定する際は、複数の企業に見積もりを依頼し、運賃や諸条件を検討して、次回の入取引での上で交渉することが一般的だ。場当たり的な選定は不利な条件・運賃での契約になる。

フォワーダー選定プロセス

3つ目は構築した選定プロセスの継続的な改善だ。

おおむろ・しょうじ|2010年米ナショナル大経営学修士、外資系3PLプロバイダーで複数の倉庫の立ち上げ運営管理を経験。後に日系コンサルティングファーム勤務を経て、17年クニエ入社、現職。物流領域での業務改革やシステムコンサルティングを手掛ける。